

経済学研究科

○ディプロマポリシー

客観的な基準と公正な手続き・評価システムによって、修士論文または博士論文を評価し、学位を認定します。修士課程では、指導教員が指導する専攻科目の演習を2年間（8単位）と指導教員の指示する専攻科目を含む講義科目（特論）を24単位以上履修し、指導教員の指導の下で修士論文を作成し、その審査に合格した者に修士（経済学）の学位が授与されます。なお、修士論文については、2年次の秋に実施される公開の修士論文中間報告会、および2月に行われる修士論文最終報告会で発表し、最終報告会後に行われる3名の審査員による口頭試問を受け、そこでB以上の評価を得なければなりません。その際、成績評価は、研究分野に対する知識、研究の方法、論旨の明確さ、文章の明瞭さなどの点から評価しますが、論文が80%、口頭試問が20%の割合で総合評価とします。修士論文の成績は、2年次の演習の単位に含まれます。なお、本研究科博士後期課程への進学を希望する者は、修士論文の成績がAであることが条件となります。

博士後期課程では、指導教員が指導する専攻科目の演習（研究指導）を3年間（12単位）と指導教員が指示する講義科目（特殊研究）2科目（8単位）を履修し、在学期間中に博士論文（学位論文）を提出し、その審査に合格すると博士（経済学）の学位が授与されます。博士論文についても、修士論文と同様、公開の中間報告会および最終報告会で報告することが条件となります。論文の審査については、(1) 研究の目的・対象・方法等の明確さ、(2) 研究の独創性、(3) 当該分野の研究に対する貢献と位置づけ、(4) 文献参照範囲の適切さ、(5) 論旨の明確さと一貫性、(6) 文章の明瞭さ、(7) 学術論文としての形式要件などについて3名の審査員によって評価されます。その際、必要に応じて当該領域における外部の専門家を審査員に加えることもあります。その後、博士後期課程担当教員の3分の2以上が出席する委員会における投票で、出席者の3分の2以上の賛成を得る必要があります。

○カリキュラムポリシー

経済学研究科では、経済と経営をより深く探求し、高度な専門知識を培うことを基本目標としています。より具体的には、経済学、経営学、会計学、流通論のそれぞれの分野の専門的知識を有する高度専門職業人、または、創造性豊かな研究者の養成を目指してカリキュラムを編成しています。

修士課程においては、広い視野から精深な学識を受け、専攻分野における研究能力、又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的としています。特に、経済および経営分野における専門的研究者の育成、また同時にそれにとどまらずより広く理論と実践の領域にまたがるスペシャリストの育成を達成できるように経済関係授業科目と経営関係授業科目を配置しています。

博士後期課程は、専攻分野について研究者として自立した研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的としています。このため、経済及び経営の各分野における創造性豊かで新規分野の開拓に意欲的な研究者の養成に必要な授業科目が配置されています。

修士課程及び博士課程の授業科目は、講義科目および演習科目から編成されています。また、入学と同時に指導教員を定め、指導教員の担当する演習科目を必修と定めています。